



L-ISA Immersive Sound、シンガポール国際芸術祭の シンガポール・チャイニーズ・オーケストラ開幕公演を鮮やかに彩る



Photo Credit: Images Courtesy of Arts House Limited

オブジェクトベースのライブミックスにより、洞窟のような発電所で音楽とボーカルに清らかなサウンドを提供

2022年7月

この夏、シンガポール国際芸術祭 (SIFA) が2年ぶりに東南アジアの都市の島に戻ってきました。『The Anatomy of Performance - Ritual』と題されたこのイベントでは、さまざまなパフォーマンスアートの分野で活躍するクリエイティブデザイナーが設計した7つのユニークな場所や会場で、70以上のパフォーマンスが上演されました。廃業した発電所でフェスティバルのオープニングを飾った SIFA は、J5 Productions が提供する L-ISA Immersive Hyperreal Sound でシンガポール・チャイニーズ・オーケストラのパフォーマンスで開幕しました。

シンガポール・チャイニーズ・オーケストラは、サラワクを拠点にボルネオ先住民の文化遺産に取り組むクリエイティブエージェンシー、トゥヤン・イニシアティブとともに、『MEPAAN』を演奏しました。ボルネオ島のカヤン族の言葉で「メパーン」は「常に」「たえず」を意味し、このパフォーマンスはカヤン族の精神的・文化的なニュアンスを音と映像で表現したものです。SIFA のフェスティバルディレクターのナタリー・ヘネディゲ (Natalie Hennedige) 氏が監督を務め、Tuyang Initiative の主役 Adrian Jo Milang と Mathew Ngau Jau が歌と踊りを披露し、オーケストラの演奏を背景に75分間の公演が行われました。

このショーは、鉄とコンクリートで造られた洞窟のような産業空間である、廃止された Pasir Panjang 発電所で上演され、衣装デザイナー、写真家、映像作家、舞台・照明・音響デザイナー、マルチメディアアーティストが集まり、観客を東南アジアの手つかずの熱帯雨林にいざなうものでした。SIFA は、Ctrl Fre@k のジェフリー・ユエ (Jeffrey Yue) に音響

システムの設計と管理を依頼しました。Ctrl Fre@k は、シンガポール植物園で行われたシンガポール交響楽団の公演や、Esplanade Theatres で行われた坂本龍一氏のコンサート『Fragments』の音響デザインを担当したことがあり、このフェスティバルにはなじみの深い会社です。

「音響システムを設計する際、30mの高い天井と床から天井までの金属製の柱が、この巨大な発電所全体に激しい反響を引き起こすことが分かっていました。」とユエ氏は語ります。経験豊富な音響システム設計者は、高い明瞭度とオーケストラの忠実な拡声をすることが非常に困難



Photo Credit: Images Courtesy of Arts House Limited



であることを理解していました。この空間には音響処理が施されており、空調の騒音も聞こえてくるため、さらに難しい課題となっていました。

ユエ氏は、L-Acoustics APAC アプリケーションプロジェクトエンジニアのチョン・ワー・キウ (Chung Wah Khiew) が率いるシンガポールの Concept Systems Technologies L-ISA Auditorium で行われた L-ISA サウンドの実践型ワークショップに参加したことがあるそうです。ユエ氏は、クリアで自然なサウンドを実現するオブジェクトベースミキシングの利点を知っていたので、『MEPAAN』の公演に L-ISA テクノロジーを導入するためのアドバイスをキウに求めたのだそうです。「オブジェクトベースミキシングと定位機能は、この会場の豊かなオーケストラサウンドを向上させると確信していました。」とユエ氏は続けます。

「ユエさんは、『MEPAAN』のプロジェクトの詳細と、会場の音響的な課題を教えてくださいました。私たちは、Soundvision で建築のセットデザインと客席を描き、350 人の観客にクリアな音を提供できる L-ISA 構成を作成するために連携しました。」とキウは説明します。「空間の性質上、周波数の反応が場所によって違います。オーケストラの広いダイナミックレンジとダイナミックな音楽は、均一なカバレッジを得ることが最優先でした。」とユエ氏は振り返ります。「制作チームと協力し、セットや座席のデザインにこだわりました。L-ISA テクノロジーを使ってオーケストラのエレメントをミックスの中で定位させることができれば、プロダクションの価値をさらに高めることができると確信していました。」

二人は L-Acoustics の A シリーズをベースに、コンクリートと鉄骨がむき出しの場所を避けながら、観客に音を集中させるための正確な水平・垂直方向のカバレッジを実現するデザインにたどり着きました。



Photo Credit: Images Courtesy of Arts House Limited



Photo Credit: Images Courtesy of Arts House Limited

[A15i Focus](#) と [A15i Wide](#) 各 1 台の 5 つのアレイを 6m の高さに配置し、客席のみを正確にカバーするようにしました。2 台の [SB28](#) サブウーハーは、カーディオイド構成で配置され、ステージ上の低周波の干渉を最小限に抑えました。また、合計 56 本のマイクロホンがオーケストラの様々な楽器を拾うために使用されました。ステージ・モニターには L-Acoustics のコアキシャル [X12](#) と [X8](#) エンクロージャーが使用され、システム全体を LA8 と LA4X アンプリファイド・コントローラーがドライブしました。

計算の結果が功を奏し、着席した観客の 94.7% がイマーシブカバレッジの L-ISA ゾーンに収まりました。

パフォーマンスは、DigiCo SD5 にネイティブに統合された L-ISA コントローラーと [L-ISA](#) プロセッサーでミキシングされ、L-Acoustics アンプリファイド・コントローラーを経由してメイン・シーンシステムに出力されました。

PPPS の SIFA プロダクションマネージャーであるシンディー・ヨン (Cindy Yeong) 氏は、フェスティバルの開幕公演の成功を受けて、『MEPAAN』がこれまで携わった Pasir Panjang 発電所で行ったショーの中で最も優れたサウンドのショーの一つだと感じています。

「A シリーズと L-ISA の技術がなかったら、このような結果は得られなかったと思います。」とヨン氏は言います。「作曲家とシンガポール・チャイニーズ・オーケストラの経営陣は、L-ISA のオブジェクトベースの定位機能が、個々のオーケストラの楽器の位置を明確にし、高い明瞭度を実現するのに役立つとコメントしています。」

